

## 新規事業採択時評価の結果

(空港整備事業)

平成15年3月31日

事業名	広島空港 ILS高カテゴリー化			
所在地	広島県豊田郡本郷町	事業主体	国	
事業概要	広島空港においてILSの高カテゴリー化(カテゴリー化)を行う			
事業期間	平成15年度～平成19年度	総事業費	82億円	
目的・必要性	広島空港は、空港周辺の地形等に起因する視程不良(霧等)により、欠航、遅延等が季節的に発生しているため、ILSの高カテゴリー化により、その改善を図る。			
評価の基となる 需要予測	航空利用者 385万人(平成19年度) (就航率の改善・通年の就航率が現状(平成11年～13年の平均)の98.9%から0.6%程度の向上が見込まれる。)			
費用対効果分析	貨幣換算した主要な費用	施設整備費、施設更新費、維持管理費用		
	貨幣換算した主要な便益	当該空港着陸予定機のダイバートの回避 当該空港着陸予定機の欠航の回避 当該空港からの出発便のキャンセル回避 当該空港着陸・出発機の遅延の回避		
	費用の生じる時期	平成15年度		
	効果の生じる時期	平成20年度		
	社会的割引率	4%	現在価値化の基準年度	平成14年度
	総費用(割引後)	75億円	総便益	126億円
	B/C	1.7	B-C	51億円
	EIRR			8.9%
定量的・定性的に考慮した費用効果	空港の信頼性が向上することにより、観光、ビジネス等の交流が活性化し、地域経済の発展が期待される。 上空待機等によるフライト時間が減少することによる、NOx、CO <sub>2</sub> 等の排出ガスの削減や騒音影響の軽減などが見込まれる。			
地元等との調整状況 地域開発戦略との整合性等	広島県や県商工会議所連合会から要望がなされている。 利用者の約7割(236万人)が東京便(18便)で、その約7割(165万人)がビジネス利用である広島空港は、広島の経済圏を支えている。また、現在広島経済圏には海外に強い関係を持つ自動車産業、世界シェアの大半を占める実力を持つ企業等も存在し、国際的な繋がりが重要となっている。広島空港のILS高カテゴリー化による、国際交通や国内高速交通体系の信頼性向上は、広島経済圏の発展に寄与する。 広島市では、毎年、フラワーフェスティバル(5月3日～5日)、平和記念式典(8月6日)等が行われて、県外からも多くの観光客が訪れているが、その多くを迎える広島空港の信頼性の向上は、国際平和都市広島発展に寄与する。			
事業実施によるメリット・デメリット	広島空港に到着する航空機の欠航、遅延等の減少は、当該機材を用いた出発便の欠航や遅延の減少を通じ、全国の高速交通体系の信頼性を向上させることにもなる。			
日程・手続き	平成20年度供用開始(予定)			
関係者の意見等	平成13年1月19日に日本航空(株)、(株)日本エアシステム及び全日本空輸(株)から、広島空港のILS高カテゴリー化について、要望されている。			
備考				

## 新規事業採択時評価の結果

(空港整備事業)

平成15年3月31日

事業名	青森空港ILS高カテゴリー化				
所在地	青森県青森市	事業主体	青森県		
事業概要	青森空港においてILSの高カテゴリー化(カテゴリー化)を行う				
事業期間	平成15年度～平成17年度	総事業費	30億円		
目的・必要性	青森空港は、空港周辺の地形等に起因する視程不良(霧等)により、欠航、遅延等が季節的に発生しているため、ILSの高カテゴリー化により、その改善を図る。				
評価の基となる 需要予測	航空利用者 145万人(平成19年度) 就航率の改善 通年の就航率が現状(平成11年～13年の平均)の97.5%から1.2%程度の向上が見込まれる。				
費用対効果分析	貨幣換算した主要な費用	施設整備費、施設更新費、維持管理費用			
	貨幣換算した主要な便益	当該空港着陸予定機のダイバートの回避 当該空港着陸予定機の欠航の回避 当該空港からの出発便のキャンセル回避 当該空港着陸・出発機の遅延の回避			
	費用の生じる時期	平成15年度			
	効果の生じる時期	平成18年度			
	社会的割引率	4%	現在価値化の基準年度	平成14年度	
	総費用(割引後)	36億円	総便益	96億円	
	B/C	2.7	B-C	60億円	EIRR
定量的・定性的に考慮した費用効果	空港の信頼性が向上することにより、観光、ビジネス等の交流が活性化し、地域経済の発展が期待される。 上空待機等によるフライト時間が減少することによる、NOx、CO2等の排出ガスの削減や騒音影響の軽減などが見込まれる。				
地元等との調整状況 地域開発戦略との整合性等	市長会、青森県商工会議所連合会など、地元から要望されている。 現在、むつ小川原地区で進められている、液晶関連産業の拠点を目指す「クリスタルバレイ構想」への研究者・製品の移動手段として、さらには津軽地方に進出している半導体先端産業の技術者・研究者の移動や製品の搬出・搬入手段として重要な高速交通体系の信頼性を向上することになる。				
事業実施によるメリット・デメリット	青森空港に到着する航空機の欠航、遅延等の減少は、当該機材を用いた出発便の欠航や遅延の減少を通じ、全国の高速交通体系の信頼性を向上させることにもなる。				
日程・手続き	平成18年度供用開始(予定)				
関係者の意見等	平成13年1月23日に、全日本空輸(株)及び(株)日本エアシステムから、更に、平成15年1月14日に(株)日本エアシステムから青森空港のILS高カテゴリー化について要望されている。				
備考					